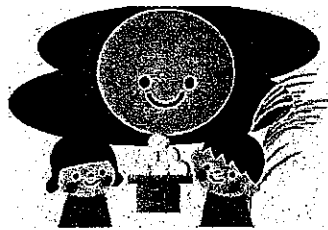
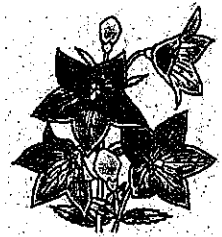


# 小島地区ふれあいセンターだより



令和7年9月 第423号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



## 9月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

| 開催日    | 行事名                             |
|--------|---------------------------------|
| 2日(火)  | 小島地区ふれあいセンター運営委員会 午前10時～11時     |
| 3日(水)  | すこやか運動教室(生涯元気事業) 午前10時～12時      |
| 5日(金)  | 子育て教室 午前10時～11時30分              |
| 9日(火)  | 小島中学校区青少年育成協議会                  |
| 12日(金) | 小島愛宕地区老人連合会定例会議 午前10時～11時       |
| 17日(水) | すこやか運動教室(生涯元気事業) 午前10時～12時      |
| 25日(木) | 小島地区連合自治会連絡会議                   |
| 27日(土) | 小島地区民生委員児童委員協議会定例会 午前10時30分～12時 |

### 【お知らせ】

#### 「長崎くんち 今年の見どころ」(主催講座)開催の御案内

日時 9月20日(土) 午前10時～12時

場所 小島地区ふれあいセンター 第1研修室

内容 今年の「長崎くんち」の出し物を紹介していただき、見どころについて分かりやすい解説や、神輿守・お下り・お上りなどに関するお話しをしていただきます。

講師 土肥原 弘 久 先生(元長崎市長崎学研究所長・KTNテレビ長崎 くんち解説者)

受講料 無料

申込先 小島地区ふれあいセンター(電話095-826-7703)

申込方法 直接来所、電話による申込み(午前10時～午後4時30分、月曜日を除く)

申込日 8月26日(火)～9月18日(木)

皆様のご参加をお待ちしています!!



江戸町から立山役所まで⑦

○サン・フランシスコ教会(修道院跡(旧長崎市役所別館)  
慶長16年(1611)アスンシオン神父によって建設、同19年(1614)破壊されま  
した。

のち、桜町牢が置かれ、中浦ジュリアンや金鑄治兵衛など多くのキリシ  
タンが捕らえられ、改宗を強いられました。この施設は明治14年(1881)ま  
で存在しました。

○サント・ドミンゴ教会跡、末次平蔵宅跡(桜町小学校)

慶長14年(1609)モラーレス神父をはじめ、ドミニコ会が鹿児島教会を解  
体し、木材を船で運びサント・ドミンゴ教会を建設しました。しかし、こ  
の教会は、僅か5年後の慶長19年(1614)に徳川家康が出した禁教令によつ  
て破壊されました。

その後、御朱印貿易で膨大な富と権力を得た末次平蔵(政直)が代官屋  
敷を建設しました。以後、代官職を世襲し繁栄しましたが、4代茂朝の  
時、延宝4年(1676)に密貿易が発覚し失脚、没落しました。

末次家失脚後は、代官職を代行した高木家が、元文4年(1739)に代官職  
に正式に任命され、幕末まで世襲されています。

○長崎県師範学校、第一番向明(勝山)小学校

明治6年(1873)長崎県初の教職員養成所を創立しています。当時の名称は  
教員仮師範所でした。その後、新町に移転。その跡に、長崎初の小学校の  
ひとつ第一番向明小学校が建てられ、翌明治7年に勝山小学校となりま  
した。その後、校区の改廃を経て、桜町小学校となっています。(平成9  
年4月1日)

○長崎初の石畳、八百屋町

永禄10年(1567)ルイス・デ・アルメイダによって布教活動が始まると、文  
禄3年(1594)立山に「山のサンタ・マリア教会」が建ち、八百屋町の通り  
は船着場(船津町下付近)とのメインストリートとなり長崎初の石畳が敷  
かれました。八百屋町は開港後まもなく開かれた町で、近隣の農家で採れ  
た野菜などを販売する露店が始まりといわれます。

○長崎会所跡

江戸時代、長崎奉行の監督の下、長崎貿易を独占していた商人団の拠点で  
す。

## ふれあい俳壇

夏空や玄武祀れる中華門 永福倫子

蟬時雨迷ふ間のなき余生なり 許斐洋子

終戦日洗ひ晒しのシャツをきて 城臺文江

母の忌を修して囲む夏の膳 園田洋子

童心へ吾も帰らん海紅豆 立木由比浪

待つ人もあらぬ家路や法師蟬 田中怜子

夏負けの胃の腑や赤き中華門 田原より子

夏雲は神の綿菓子聖主日 辻原晚霞

秋近し豚饅匂ふ中華街 篠先四十三

空蟬や昨日の記憶なぞりつつ 松永美記子

囃されて子等の頑張る浦競渡 山本松子

ゆりの香をまとい保険屋ねばりを 吉田光子

※ふれあい俳壇は、小島地区ふれあいセンターで活動されている  
グループ(若井の会・湾長崎支部俳会)の皆さんの作品です。

## 「小倉百人一首」を読み解く 竹方其

九番歌(小野小町)

花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしに

【語訳】  
桜の花の色は、むなしく衰え色あせてしまった。春の長雨をぼんやり眺め  
ているうちに、ちょうど私の美貌が衰えたように、こんなにも褪せてしま  
いました。

【留意点】

よく知られている歌で、色あせた桜に自分の姿を重ねた歌です。かつて日  
本の美女を「小町」と言ったように伝説の美女です。それは年をとるにつ  
れて衰えゆく「無常な時間に敗れゆく美」を歌い上げたからかもしれない。  
・藤原定家は、小野小町を「本朝一の美女」と賞賛している。「この歌」はあ  
まりにも美しいからである。桜の花は色は変わらなず咲いたときの色合い  
のまま散ってゆく。しかしこの歌にはどこにも散ったとは書いてない。単  
に「色が変わっていく」と詠んでいるだけです。桜の花の色は変わらない、  
変わっていくのは桜の花の「形」なのです。つまり満開の桜の花が雨風に  
打たれて散って形をかえていくわけであると、そして散る花もあれば散ら  
ずに残っている桜の花もあると。小野小町は「私は、まだ散っていないわ  
よ」と詠んでいるのである。この歌は小町が若い時に詠んだ歌ではない。  
ある程度年齢をとってから作である。つまり私は若くはないけれどまだ心  
の艶は失っていないのよ、裏をかえせば、まだ燃えるような恋がしたいわ  
と言っているのです。恋は女を男を輝かせる、若々しさを失わせない。そ  
んな心の可愛らしさを、見たこともない小町のこの歌を讀んでいるのであ  
る。ここで言わんとすることは、小町はいくつになってもときめきを失わ  
ない、心の美女であったと。内面の美しさを愛でる心こそ、日本の文化な  
のであると。



## 「小倉百人一首」を読み解く 竹方其

十番歌(蟬丸)

これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関

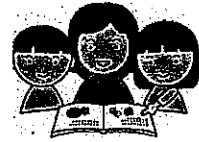
【語訳】

これがあの、京から出ていく人も帰る人も、知り合いも知らな  
い人も、皆ここで別れ、そしてここで出会うと言う有名な逢坂の  
関なのだなあ。

【留意点】

・逢坂の関：山城国(京都府)と近江国(滋賀県)の境にあった  
関所で、この東側を東国だとされた。  
・この歌は百人一首では特殊な戯歌(ざれうた)に近い歌です。  
昔の歌人たちは、仏教の「会者定離(えじやじより)」をこの  
歌に感じた。会えば必ず別れがあり、別れはまた出会いがある  
というような無常観をここに見た。新しい出会い、必ず別れ  
を選んでくるもの。しかし、それが人生である。逢坂の関は出  
会いと別れを象徴する人生そのものを暗示しているのである。  
・七世紀の日本においては誰もが自由に生活することができ  
る世の幸せを、社会の喜びを見事に詠い上げたものである。





# 〈新着図書のご案内〉

|                  | 書 籍 名             | 著 者 名     | 出 版 社     |
|------------------|-------------------|-----------|-----------|
| 一<br>般<br>図<br>書 | 恐慌目前！             | 浅井 隆      | 第二海援隊     |
|                  | おなかのカビが病気の原因だった   | 内山 葉子     | ユサブル      |
|                  | ポピュリズム            | 堂場 瞬一     | 集英社       |
|                  | 五郎正宗              | 藤井 邦夫     | 光文社       |
|                  | 珍味脅し              | 和田 はつ子    | 角川春樹事務所   |
|                  | 伊勢海老恋し            | 和田 はつ子    | 角川春樹事務所   |
|                  | 色なき風              | 藤原 緋沙子    | 双葉社       |
|                  | 牡丹ずし              | 和田 はつ子    | 角川春樹事務所   |
|                  | 情けの糸              | 岡本 さとる    | 祥伝社       |
|                  | 人間というもの           | 司馬 遼太郎    | PHP 研究所   |
|                  | 鬼平犯科帳 12          | 池波 正太郎    | 文藝春秋      |
|                  | 散歩のとき何か食べたくなって    | 池波 正太郎    | 新潮社       |
|                  | 椿平九郎留守居秘録 8       | 早見 俊      | 二見書房      |
|                  | たば風               | 宇江佐 真理    | 文藝春秋      |
|                  | まんぷく              | 畠中 恵      | PHP 研究所   |
|                  | 牛天神               | 山本 一力     | 文藝春秋      |
|                  | 団地のふたり            | 藤野 千夜     | 双葉社       |
|                  | 休養学               | 片野 秀樹     | 東洋経済新報社   |
|                  | 楽しく脳活クイズで学ぶ浮世絵入門  | 藤澤 紫      | 小学館       |
|                  | 勝ちに行く覚悟           | 泉 房穂      | 講談社       |
| 児<br>童<br>図<br>書 | 70歳からのスマホの使いこなし 2 | 増田 由紀     | アスコム      |
|                  | 貌のない貌             | 松嶋 智左     | 祥伝社       |
|                  | アフターブルー           | 朝宮 夕      | 講談社       |
|                  | 蛍たちの祈り            | 町田 そのこ    | 東京創元社     |
|                  | 白子の柚子釜            | 中島 久枝     | 角川春樹事務所   |
|                  | ちょうちょちょうちょ        | きくち ちき    | 偕成社       |
|                  | 読書感想文が終わらない！      | 額賀 滯      | ポプラ社      |
|                  | すごすぎる数の図鑑         | 渡邊 究      | KADOKAWA  |
|                  | まるでむかしばなしのような     | ジェイン・ヨーレン | 岩崎書店      |
|                  | カップおんせん、あわあわあわ    | 片平 直樹     | ひさかたチャイルド |